慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	三田史學會例會報告
Sub Title	
Author	
Publisher	三田史学会
Publication year	1957
Jtitle	史学 Vol.30, No.2 (1957. 11) ,p.133(269)- 133(269)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	彙報
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19571100-0133

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

して、遠く雲霞と連なり薄れすばらしい景觀であつた。

最後に天平六年（七三四年）行基菩薩の創建と傳えられる杉本寺へ向う、徒歩約二十分。仁王門を入り石段を登ると正面に本堂がある。堂内正面の厨子内に木彫十一面觀音立像が三躰安置されている。中央は慈覺大師の作と傳え、相好圓滿莊重左は惠心僧都の作と傳え、兩手に來迎の印を結んで上下に分ち、その姿體極めて優美である。この二躰は重要文化財に指定され、共に藤原末期の様式を示している。右の古拙な像は行基の作と傳えられる一木造である。同寺は「吾妻鏡」に「大藏觀音堂」と見え、賴朝、政子及び實朝がしばしば參詣した記事や、文治元年（一一八五年）の條には「夜に入つて大倉の觀音堂回祿す。別當淨臺坊煙火を見て悲歎し、焰の中に走り入つて本尊を出す、衲衣纔に焦げたりと雖も身體敢て恙なし」とあるのは今に殘る中央の本尊のことであろう。斯くしてせまり來る夕闇と共に有意義な一日の見學を終えたのである。

（小谷俊彦記）

三田史學會例會報告

第四四八回例會　昭和三二年七月四日　於七番教室

山と水　　淺子勝二郎氏

第四四九回例會　昭和三二年一一月七日　於九番教室

アメリカに於ける中國研究　　石川忠雄氏